

**国際電気通信連合 (ITU)**  
**2007年無線通信総会 (RA) の結果**

**総務省**

## RA (Radiocommunication Assembly) -07の概要

---

- 開催日:2007年10月15日～19日
- 場所:スイス国ジュネーブ
- 参加:97ヶ国及び8地域機関など519名が出席

我が国からは松本官房技術総括審議官をはじめ30名が出席  
(総務省7名、NTT、NHK、NTTドコモ、KDDI等から23名)

- 主な議題:
  - ① 2008年以降の次研究会期(2008～2011年)における研究体制の決定(各研究グループ(SG)の議題・副議長の指名を含む)
  - ② 各研究グループ(SG)会合から提出された勧告案等の承認
  - ③ 次研究会期における研究課題の承認 等

# I. 次研究会期の研究体制

- 最新の技術動向を考慮し、6つのSGに再編。
- このうち、新SG5として、移動業務と固定業務等を一体的に扱う巨大SGが出現。
- 日本はこの巨大SGの議長ポストを獲得。あわせて、衛星通信に関する研究を扱うSG及び放送技術に関する研究を扱うSGの副議長を獲得。

## 旧研究会期(2004年-2007年)



## 新研究会期(2008年-2011年)



## Ⅱ. 勧告案等の承認

### (1) IMT-2000(第3世代携帯電話)の無線インタフェースにWiMAXを追加する勧告案

一部の国の反対はあったものの承認。移動系WiMAXが第3世代携帯電話の一方式に追加。今後の国際的な普及・展開の加速が期待される。

### (2) IMT-Advanced(第4世代携帯通信システム)の標準化のプロセスに関する決議案

WRC-07で分配される周波数に対して、方式提案、評価方法等のプロセスの原則を定める新決議が承認。新たに設置されたSG5にて、今後、2010年以降の導入に向けてIMT-Advancedに係る標準化作業が本格化。

### (3) PLC(電力線通信)より漏えいする電磁波からの短波放送の保護の条件に関する勧告案

我が国に導入されているPLCより厳しい基準を課そうとするもの。勧告化はされず、SG6等でレポート作成を念頭にさらに検討。

### (4) 超高細度画像の規格に係る研究課題案

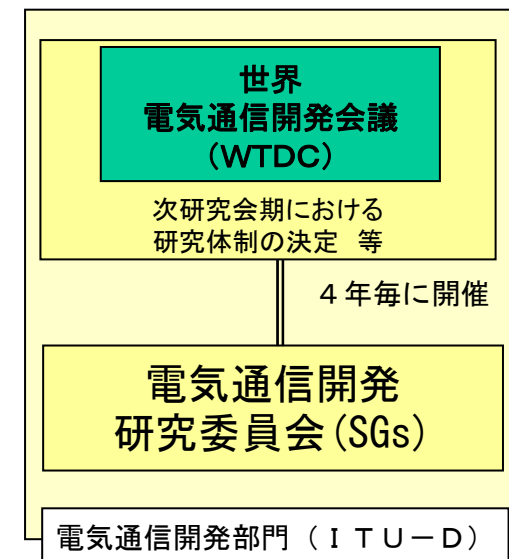
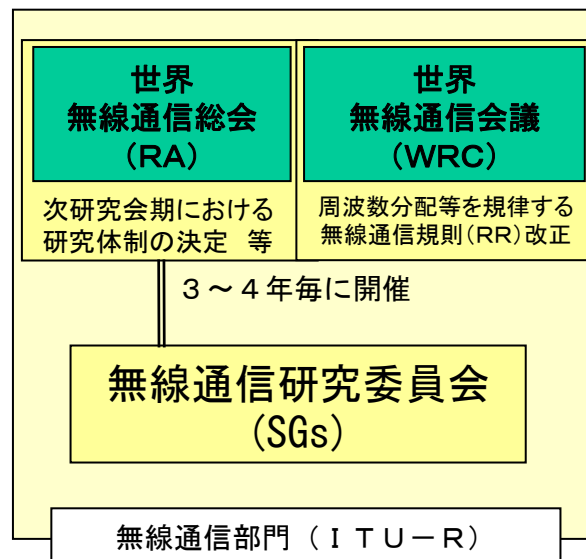
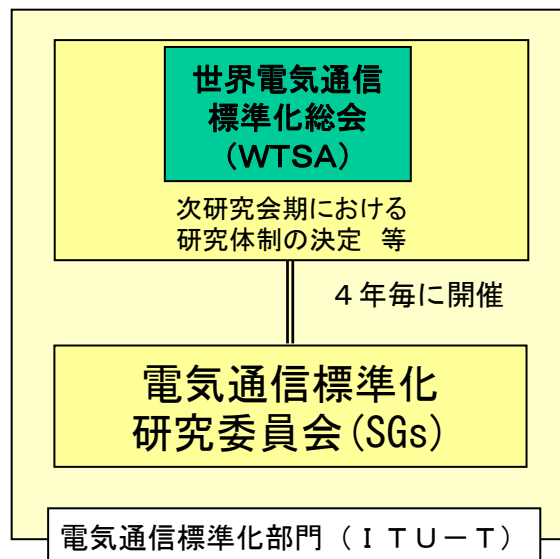
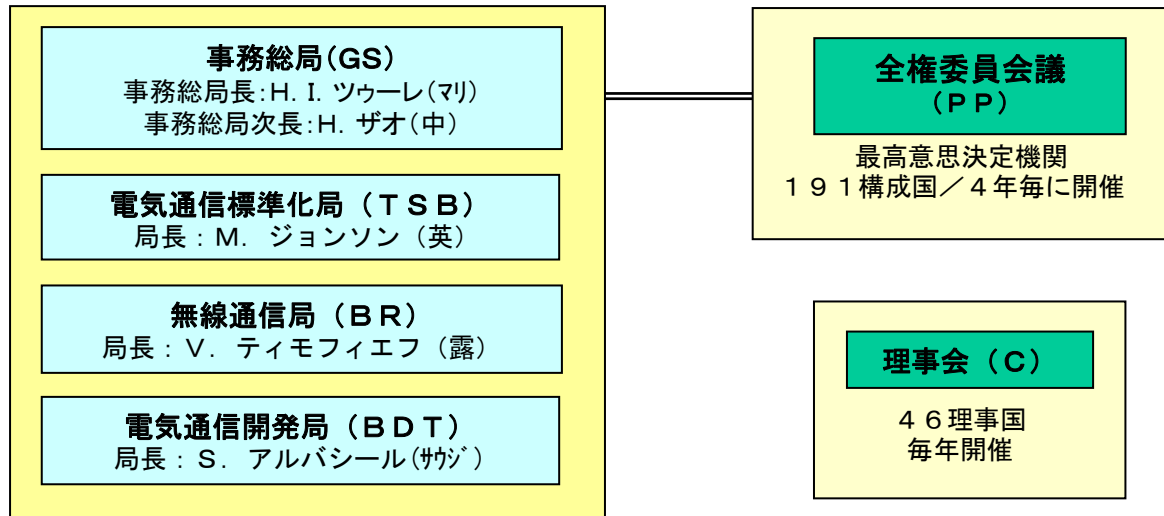
放送や医療等の業務に使用する超高細度画像(EHRI)の規格に係る新たな研究課題の設定が承認され、次研究会期において、我が国が得意とする高精細映像分野におけるITUにおける国際標準化が一層加速されることとなった。

(注) EHRI: Extremely high-resolution imagery

### (5) 防災、災害救助等のための無線利用に関する決議案

全てのSGが協調して、防災、災害救助等における無線利用に関する研究を促進することとなった。また、ITU-Rが災害緊急時に利用可能な周波数に関するデータベースを整備することとなった。

# (参考) ITUの組織と主な会議



## (参考) 次研究会期における各研究グループの議長・副議長

	名前	国
<b>Study Group 1 (周波数計画、利用、技術、分配及び監視)</b>		
議長	Mr. R. Haines	米国
副議長	Mr. R. Garcia De Souza	ブラジル
	Mr. S.I. Gharbawi	エジプト
	Mr. S.K. Kibe	ケニア
	Mr. H. Mazar	イスラエル
	Mr. S.Y. Pastukh	ロシア
	Dr. C. Ryu	韓国
	Mr. V.V. Singh	インド
	Mr. J. Verduijn	オランダ
	Mr. X. Zhou	中国
<b>Study Group 3 (電波伝搬)</b>		
議長	Mr. B. Arbesser-Rastburg	ESA
副議長	Mr. F.Y.N. Daudu	ナイジェリア
	Prof. M. Pontes	ブラジル
	Mr. J.C. Wang	米国
	Mrs. C. Wilson	オーストラリア
	Prof. Dr. H. Zhu	中国
<b>Study Group 4 (衛星系業務)</b>		
議長	Dr. V. Rawat	カナダ
副議長	阿部 宗男氏	日本
	Mr. O. Baiye	ナイジェリア
	Mr. N.A. Bin Hammad	ア首連
	Mr. M.G. Castello Branco	ブラジル
	Mr. X. Gao	中国
	Mr. M.M. Simonov	ロシア
	Mr. A. Vallet	フランス
	Mr. J.J. Wengryniuk	米国

	名前	国
<b>Study Group 5 (地上系業務)</b>		
議長	橋本 明氏	日本
副議長	Mr. T.K.A. Alege	ナイジェリア
	Dr. A. Chandra	インド
	Dr. J. Costa	カナダ
	Mr. T. Ewers	ドイツ
	Mr. C.T. Glass	米国
	Dr. A. Jamieson	NZ
	Mr. A.I. Klyucharev	ロシア
	Mrs. L. Soussi	チュニジア
	Mr. L. Sun	中国
	Dr. K.-J. Wee	韓国
<b>Study Group 6 (放送業務)</b>		
議長	Mr. C. Dosch	ドイツ
副議長	西田 幸博氏	日本
	Mr. A.O. Bolarinwa	ナイジェリア
	Ms. C. DiLapi	米国
	Prof. O.V. Gofaizen	ウクライナ
	Ms. K.-M. Kim	韓国
	Mr. R.R. Prasad	インド
	Dr. G. Rossi	バチカン
	Mr. F. Zou	中国
<b>Study Group 7 (科学業務)</b>		
議長	Mr. V. Meens	フランス
副議長	Dr. H. Chung	韓国
	Ms. S.Y. Lyubchenko	ロシア
	Mr. J.E. Zuzek	米国

	名前	国
<b>CCV</b>		
議長	Mr. N. Kisrawi	シリア
副議長	Prof. L. Barclay	英国
	Mr. J.-P. Huynh	フランス
	Mr. H. Lebbadi	モロッコ
	Mr. C. Menéndez Argüelles	スペイン
	Mr. A.P. Pavlyuk	ロシア
	Mr. F. Xie	中国
<b>RAG</b>		
議長	Mr. K.J.-B. Yao	コートジボアール
副議長	Mr Y. Al-Bulushi	オマーン
	Ms. A.L. Allison	米国
	Dr. A. Magenta	イタリア
	Dr. H. Seong	韓国
	Mr. V.A. Strelets	ロシア
<b>CPM</b>		
議長	Mr. A. Nalbandian	アルメニア
副議長	Mr. A. Frederich	スウェーデン
	Mr. V.I. Glushko	ロシア
	Mr. J.-J. Massima	ガボン
	Ms. S. Taylor	米国
	Mr. R. Abdalkader	チュニジア
<b>Special Committee</b>		
議長	Mr. M. Ghazal	レバノン
副議長	Mr. J. Edane-Nkwele	ガボン
	Mr. P.V. Giudici	バチカン
	Mr. T.D. Kadyrov	ロシア
	Mr. R.J.S. Kushvaha	インド
	Mr. L. Olson	米国
	Mr. B. Soury-Lavergne	フランス
	Mr. T. Shafiee	イラン